



XQuery用例集の翻訳と成果

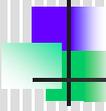
日本IBM・システムズ・エンジニアリング

木村佳陽子



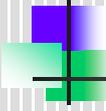
活動目的

- XQueryに関する日本語情報を広く提供することによりXMLDBの普及を促進する
- 部会昇格を見据えて作業基盤を確立する
- 初歩として参考文献になるものをターゲットとする
- 活動期間(2006年11月～2007年4月)である程度の成果をあげる



対象ドキュメント

- XQuery Use Case(W3C Working Draft 8 June 2006)
 - 具体的なコードが記述されており、イメージが掴みやすい
 - 用例集なので具体的な応用場面が分りやすい
 - XMLコンソーシアムのサイトに2002年11月15日版が掲示されているが既に古くなりすぎている



作業の進め方

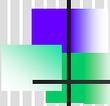
- 1回/月のミーティングを実施
 - 次回ミーティングまでの間は分担して翻訳作業

課題

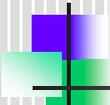
- 作業中の文書をどのように管理・取りまとめるか？ - 業務と並行して作業を行うため予定通りに進まないことが予想される
 - 作業状況が随時確認できる仕組みが必要
 - Wiki (Trac)を導入し、作業分担、仕掛かり文書等をすべてオンラインで管理
- バックグラウンドの違いにより訳語が揺れる
 - 例) Collation : DB系「照合順序」
 : 文書系「照合」
 MLを活用して議論し、訳語集を作成、訳語を統一

Tracの特徴

- TracはEdgewall Software がオープンソースで提供しているソフトウェア(Trac 日本語版はインタクト株式会社が提供している)。
- Issue 管理機能
 - チケットを登録し、その変化を記録(コメント)し、RSSやメールでメンバに配信できる
- バージョン管理・差分の比較機能
 - 翻訳の進捗状況・差分を確認可能

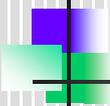


Tracの画面イメージ(トップページ)

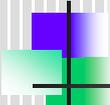
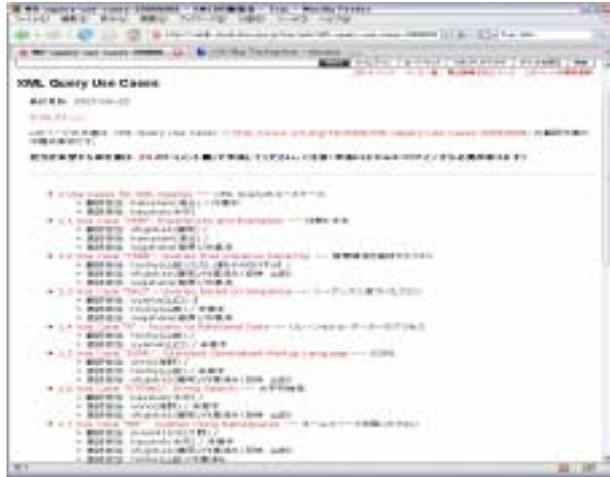


Tracの画面イメージ(懸案管理)





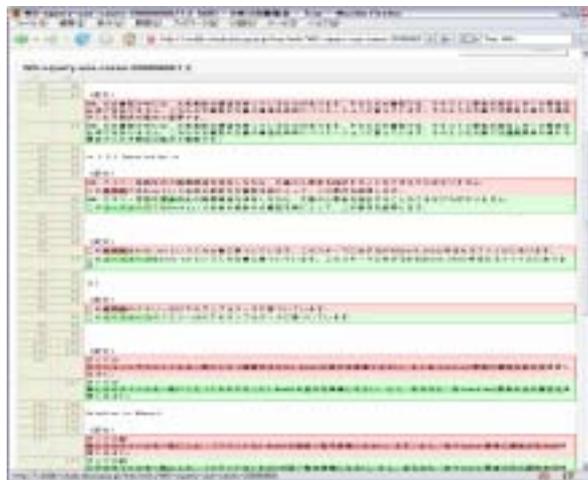
Tracの画面イメージ(作業分担)



Tracの画面イメージ(作業状況)

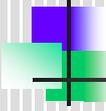


Tracの画面イメージ(更新履歴)



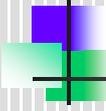
成果

- XQuery Use Case(W3C Working Draft 8 June 2006) 日本語版
 - 現在ブラッシュアップ中ードラフトは<http://xmldb-study.discypus.jp/trac/>にて参照可能
- XQueryにフォーカスした訳語集の作成
- 部会化後のドキュメント整備活動にむけたノウハウの蓄積



今後の課題

- XQuery Use Caseは2007年3月23日に XQuery1.0コアドキュメントの勧告化に追随してW3C Working Group Noteにプロモートしている - 差分の洗い出しと反映が必要
- 今後、ドキュメント整備を継続して行うに際しては作成したドキュメントのメンテナンス体制を整える必要がある



部会化後の展望

- W3Cドキュメントの和訳・紹介
- 和訳ではなく、オリジナルな日本語ドキュメントの作成
 - TIPS集、チュートリアル、W3Cドキュメントの整理、逆引きインデックス...

XQueryチュートリアル

- 目的
 - 初学者のXQuery理解のため
 - 少し書き慣れてきた人のスキルアップのため
 - XQuery Use Case文書の補足
- 内容
 - 同じ結果を得るための異なる書き方の解説
 - クエリの書き換えによる結果の違いの解説
 - XQueryは書き方が柔軟
 - 同じ結果を得るために様々な書き方が可能
 - 少し書き換えると、結果が大きく異なることがある
初学者にはわかりにくい

XQueryチュートリアル

- 例
 - Use Case 1.1.9.1
 - 1991年以降「アディソン - ウェスリー」によって出版された本をそれらの年とタイトルを含めて一覧表にしなさい。
 - XQueryでの解決:

```
<bib>
{
  for $b in doc("http://bstore1.example.com/bib.xml")/bib/book
  where $b/publisher = "Addison-Wesley" and $b/@year > 1991
  return
    <book year="{ $b/@year }">
      { $b/title }
    </book>
}
</bib>
```

XQueryチュートリアル

- 書き換え例
 - XPathで条件指定

```
for $b in ("http://bstore1.example.com/bib.xml")/ bib/book[@year > 1991 and publisher = "Addison-Wesley"]
return <book year="{ $b/@year }">
  { $b/title }
</book>
```
 - FLOWRを使って

```
for $b in ("http://bstore1.example.com/bib.xml")/ bib/book
let $y := $b/@year,
    $p := $b/publisher
where $y > 1991 and $p = "Addison-Wesley"
return
  <book year="{ $y }">
    { $b/title }
  </book>
```
 - returnの書き換え

コンソーシアム活動を通じて 得られたこと

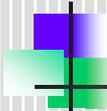
- 活発な意見交換
 - 技術者が集まることで、さまざまな現場の課題や解決方法を議論できる
 - 技術者が抱える多数の未解決ポイントを知ることができる
- 最新の情報収集の場
 - カタログだけでは得られない詳細な情報が得られる
 - 業界における過去の経緯や、将来の市場動向などを知ることができる

コンソーシアム活動を通じて 得られたこと

- 「やればできる」という自信
 - 翻訳は早く完成
 - はっきりした目標がある方がやりやすい
- 何より...
 - お互いに助け合い、話し合うことで、新しいコミュニティが生まれる

反省点

- やっぱり忙しい
 - ボランティア活動
 - 活動テーマごとの期間、工数の見積もり
 - 短期集中
 - 細く長く
- ミーティングとMLの使い分け
 - ミーティングで決定持ち帰って作業
 - ミーティングで決めきれなかったことを、MLの議論で決めていくのは難しい
- MLで議論を活発に保つことの難しさ
 - 誰か答える？
- やろうとする意思が必要
 - モチベーションを維持することの難しさ



メンバーのご紹介

- 山田さん^[リ-タ] : データディレクト テクノロジーズ
 - 大野さん : 日本オラクル
 - 福重さん : デジタルコミュニケーションズ
 - 濱谷さん : リコーソフトウェア
 - 海野さん : 日本電子専門学校
 - 山口さん : サイバーテック
 - 木村さん : 日本IBMシステムズエンジニアリング
 - 藤原さん : イースト
 - 菅原さん : 日本IBM
 - 中野さん : NTTソフトウェア
 - 勝俣さん : NTTソフトウェア
- 皆さん、お疲れ様でした。部会でも頑張りましょう！